



富山小中学校は同一校舎に
は2000年に山村留学制度
を導入した。

活力失う…危機感 ■山村留学に影響

「望む人も、水産...のかく積み上げてきた小ならJ R飯田線の大のに残念」と話す。富山地区の振興に向け引き続き活動していたと話しした。

愛知の病院

つなごう医療

<112>

玄関から入ると、白と黒を基調にした内装のロビーに迎えられる。「つらいらりハビリに前向きに取り組んでもらえるように」と、ホテルやレストランのような内装を意識した。病棟につながる階段はガラス張りで、目の前を走る国道1号を見渡すことができる。

可知病院 豊川市

医療法人「鳳(ほう)紀念(きん)」が運営し、回復期リハビリテーションを核とする病院。患者の多くはお年寄りで、総合病院などで脳卒中や骨折などの治療を受け、転院してくる。目標にするのは、病气やけがをする前の生活を取り戻すこと。患者と看護師の割合を十三対一とし、医師や理学療法士、音楽療法士らがチームをつくらせて取り組んでいる。

一九七〇年に可知外科

として開業。病棟の増築などを経て、敷地内に二〇一二年三月、新病院が開院。今年四月には病棟を増築して病床を増やした。急性期医療に対応する新豊川市民病院の五月開院が控えていたこともあり、患者の受け入れ態勢を整えた。コンピュータ断層撮影(CT)室や磁気共鳴画像装置(MRI)室も備える。入院患者は起床後、パジャマから普段着に着替



理学療法士(左)に支えられながら、歩行のリハビリをする患者―豊川市国府町桜田の可知病院で

回復期リハビリ 核に

え、お見舞いや通院の人 肢まひ、食事ができない 持ちが一番大事」と話す。しといいた患者者に対応と変わらない服装に。退院などの重症患者も「自宅増築に合わせ、車の運送する。病院での導入後に自力で通院できるで生活したい」との思い、転を模擬体験できるドラは珍しく、外見では判断ようにするため、近くのがあれば受け入れる。イブシミュレーターも導が難しい運転能力の有無外でのリハビリも取り入 復帰するためには、本人年寄りが地域に多く、車訪問リハビリと短時間



可知病院 1970年創立▽療養病床60床▽常勤医5人、非常勤医14人、理学療法士18人、作業療法士11人、言語聴覚士5人、音楽療法士1人▽リハビリテーション科、整形外科、小児科など9科▽豊川市国府町桜田15の1▽名鉄名古屋本線国府駅から徒歩3分▽電0533 (88) 3331

今後必要性高まる 可知裕章院長の話 少子高齢化社会の到来で、回復期リハビリの必要性は高まっていく。病気になる人も、年を取っても一人で生きていくことができないのが理想。障害が残っても、それまでやってきたことをできるようにすることが本人のため、周りの家族のためになる。患者や地域の要望に添って、病院としてさまざまな取り組みをしていきたい。

型通所リハビリを行い、退院後のフォローもしている。このほか豊川市から委託を受け、院内で病後児保育室を運営するなど、幅広い世代の病气やけがからの回復を支えることに努めている。(中山梓)

海水浴場水質 いずれも良好 県が23カ所検査 県は十四日、今年開かれる県内の海水浴場二十三カ所の水質検査の結果をまとめた。いずれも水質は良好とされ、放射性物質は検出されなかった。

海水浴シーズン前に、県は毎年、水質検査を実施している。今年五月七日から二十一日の間に海水浴場ごとに水の中の大腸菌数、油、有機物などを調べた。「水質が特に良好」とされる「水質AA」は昨年の二カ所から七カ所に増えた。水質Aが二カ所、水質Bが十四カ所だった。

この連載は、原則隔週土曜日に掲載します。過去の記事は「中日 医療サイト」で読めます。